日テレ

日本テレビ放送網株式会社

アニュアルレポート 2011年 3月期 別冊版

日本テレビのCSR活動

目次

■日本テレビのCSR
日テレ・サステナビリティ..... 1
「国連グローバル・コンパクト」に署名..... 1
■日本テレビならではの活動
番組を通じた社会貢献活動..... 2
番組を通じた環境保全活動..... 3
番組情報のバリアフリー化への取り組み..... 3
■環境活動
基本理念..... 4
■社会的活動
企業倫理..... 4
人材育成..... 5
ママモコモ活動..... 5
日テレ体験教室..... 5
■「よみひと知らず」朗読＆ワークショップ..... 6
■公益財団法人 日本テレビ系列愛の小鳩事業団..... 6

ごあいさつ

2011年3月に発生した東日本大震災により被害を受けられた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い復興と皆様の健康を心よりお祈りしております。

日本テレビでは、テレビ局という社会に対する影響の極めて大きい企業が社会的責任を果たしていくことは当然のことであり、その使命を遂行してこそ視聴者からの信頼を確立し、企業発展の基礎につながっていくものと考えます。

2011年8月

代表取締役　社長執行役員
大久保　好男

日テレ・サステナビリティ基本方針

- 視聴率の追求のみならず質の高さも兼ね備えた番組の制作に努めるとともに、日テレタワーの最新鋭機能を効率的に活用して、デジタル新時代を積極的に生き抜いていきます。
- 若い世代に夢のある美しい地球を残すため、番組を通じて環境保全をアピールするとともに環境負荷低減に努めます。
- 経営環境の変化に対応する迅速な意思決定と業務執行に努め、持続可能な企業価値向上と社会への貢献度を高めていきます。

日テレ・サステナビリティ

地球環境の破壊をいかに防ぐか、限られた地球資源をどううまく使っていくのか、次の世代に夢のある美しい地球を残すためにメディアとして何ができるのか。日本テレビでは、2003年4月の「日テレ・エコ委員会」発足以来、これまで番組やイベント、広報・宣伝・IR活動、営業を通じて、また社内で環境保全活動に取り組んできました。2005年8月からは環境マネジメントシステムをスタートさせ、同年11月26日、在京民放キー局の全社規模としては初めて汐留日テレタワー（東京・港区）においてISO（国際標準化機構）の環境マネジメントシステム規格「ISO14001：2004」の認証を取得しました。

私たちが生きる地球を守るために、そして私たちの社会がいつまでも発展し続けるために何をなすべきか。日本テレビは皆様とともに考え、これからも番組やイベントを通じて、地球環境保全の大切さを伝えていきます。

FTSE4Good

英FTSEインターナショナル社の社会的責任投資指標である「FTSE4Goodインデックスシリーズ」の構成銘柄に8年連続の選定

「国連グローバル・コンパクト」に署名

2011年1月、日本テレビは「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。国連グローバル・コンパクトとは1999 年1月にスイス・ダボスで開かれた世界経済フォーラムにおいて、当時のアナン事務総長が「民間企業の持つ創造力を結集し、弱い立場にある人々の願いや未来世代の必要に応えていこう」と提唱した企業の自主行動原則です。参加企業には、人権、労働、環境、腐敗防止などCSRの基本10原則に基づいた企業活動を支持し実践することを求めており、現在、世界140カ国、8,600の企業・団体が加盟しています。

日本テレビは、「日テレ・エコ委員会」発足以来、全社を挙げて環境保全活動に取り組んでおり、2005年からは、毎年6月5日の「国連・世界環境デー」に合わせてテレビやイベントを通じ「日テレecoウィーク」キャンペーンを展開しているほか、チャリティー番組の「24時間テレビ」や小学生から高校生を対象にした出前授業「テレ小屋」などを通じて、テレビ局ならではの社会への貢献活動を実施しています。今回の国連グローバル・コンパクトへの署名をきっかけに、こうした活動をより強化し、国内のみならず海外からも信頼されるグローバルな企業を目指していきます。

THE GLOBAL COMPACT
WE SUPPORT

番組を通じた社会貢献活動

>>24時間テレビ「愛は地球を救う」

1978年に産声を上げた「24時間テレビ」は今年で34回を数えるチャリティー番組です。2011年は、「力（ちから）～わたしは、たいせつなひとり。～」をテーマとして2011年8月20～21日に放送しました。番組イベント会場での募金をはじめ視聴者の皆様から寄せられた募金は、「24時間テレビチャリティー委員会」を通じて、全額が「福祉」「環境」「災害援助」の3つの分野の支援活動で活用されています。

今年は、東日本大震災で多大な被害を受けた被災地への支援として、24時間テレビ チャリティー委員会が震災直後から義援金募集を行い、総額で11億5,000万円を被災地へ贈呈しました。また、被害を受けた水産業の復興を目指し、津波で船を失った漁業組合へ義援船を届ける「義援船プロジェクト」も行いました。未曾有の災害のなか、私たちにできることは何かを考え、24時間テレビが取り組んできた「福祉」「環境」「災害援助」の分野で、これからも被災地復興のために支援を続けていきます。

なお、2011年の24時間テレビでは、全国の視聴者からお預かりした募金総額が歴代最高の19億8,641万4,252円となり、今年34回までの累計募金総額は、311億5,993万8,307円となりました（2011年10月現在）。

24時間テレビ「力（ちから）」

>>日本をきれいにするプロジェクト

「24時間テレビ」では「地球環境保護支援」を支援の柱のひとつとしています。その一環として、不法投棄ごみの撤去、海や河川の漂着ごみの清掃活動などを目的に、日本テレビ系列局が共同で「日本をきれいにするプロジェクト」に取り組んでいます。2011年は全国23カ所で9400人以上のボランティアが参加し、清掃活動を実施しました。そして約72トンのごみを回収しました。

また、2011年5月29日に東京都江戸川区荒川河川敷で行われた清掃活動では、清掃後に自然環境教室を開催し、干潟やヨシ原を保全することが荒川にすむ生き物の生活環境を回復させることなど、環境保護に関する知識の普及にも努めました。

今後も全国各地において「地球環境保護支援」の活動を実施し、不法投棄ごみ問題や生物多様性の保全など、地球環境全体への関心を高め、この支援の輪を広げていくことを目指していきます。

日本テレビ「荒川クリーンエイドアクション2011」

24時間テレビ「力（ちから）」
イベント会場での募金活動

番組を通じた環境保全活動

>>日テレecoウィーク「“つなげよう、eco ハート。2011” ～明日へのチカラ～」

日本テレビは、次の世代に夢のある地球を残すため、様々な環境保全活動に取り組んできました。その一環として、毎年、国連・世界環境デー（6月5日）に合わせてテレビやイベントを通じた「ecoキャンペーン」を実施しています。

今回は「明日へのチカラ」をテーマに、互いに思いやり助け合う気持ちを「明日へのチカラ」に変えて、地球上のあらゆる命とともに生きるために、いま自分たちに何ができるのかを視聴者の皆様とともに考え動き出すキャンペーンを目指し、2011年5月29日～ 6月5日の1週間にわたり、日本テレビのあらゆるジャンルの番組が、期間中にテーマと連動した独自のエコ企画を放送しました。

さらに、イベントでは、特別番組の生放送をはじめ、ペットボトルのキャップを使用した壁画づくりや協賛企業のエコな商品・サービスの紹介、古新聞でのエコバッグ製作などを企画し、来場者には様々な体験を通して環境への意識を高めていただくことができたと思います。

これからも日本テレビは、番組やイベントを通じて、私たちの地球、そして私たちの社会が美しい姿のまま発展し続けるためには何をなすべきか、皆様とともに考え、地球環境保全の大切さを伝えていきます。

番組情報のバリアフリー化への取り組み

ニュース番組としてはわが国で初めて全編リアルタイム字幕放送をスタートさせるなど、政府が提唱する「情報バリアフリー」推進に貢献し、聴覚障害のある方々に高く評価されています。

東日本大震災直後の緊急特別番組においては、2011年3月11日の午後5時から翌12日の午後6時まで25時間にわたって字幕放送を実施しました。放送の音声内容を逐次画面表示する字幕放送を日本テレビが一番長く行い、災害時の情報バリアフリー実現の一助になったことが評価され、全日本ろうあ連盟（理事長 石野富志三郎）より感謝状が贈呈されました。字幕放送は地上デジタル放送の主要な機能のひとつです。今後も字幕放送のさらなる拡充と質の向上、緊急時の対応強化に努めていきます。

さらに、日本テレビでは、2010年2月に発生したチリ地震で日本沿岸に大津波警報が発表された際に、各局で警報や注意報に使用される色が異なり、色覚障害者の方に判別しづらい配色も使用されていたことから、約半年にわたって東京大学分子細胞生物学研究所の伊藤啓准教授らと使用色の研究に取り組んできました。そして「大津波警報は紫、津波警報は赤、津波注意報は黄色、背景の地図は灰色、海は濃い青を使う」という配色を作り、NHKや在京キー局に提案しました。2011年5月、日本テレビ系列局はテレビ局で最初にこの配色の地図を導入し、現在はNHKおよび在京キー局においても採用されています。

「日テレecoウィーク」“つなげよう、ecoハート。”

津波速報システムのサンプル図

環境活動

基本理念

日本テレビは、環境と社会への配慮を組み込んだ企業経営「日テレ・サステナビリティ」に取り組み、地球と社会、そして企業の持続可能な発展を目指しています。この日テレ・サステナビリティにおいては3つの基本方針が定められており、「経済的側面」「社会的側面」と並ぶ3本柱のひとつとなっているのが「環境的側面」です。

今世紀、全世界共通の課題は「地球環境の破壊防止」です。日本テレビは、メディア企業のリーダーとしての社会的責任を強く認識しており、「日テレ環境方針」の制定や「日テレ・エコ委員会」および「日テレ・エコ事務局」が中心となった環境保全活動「日テレ・エコ」を積極的に展開してきました。これにより、番組やイベントを通じて広く地球環境保全をアピールするとともに、企業活動によって生じる環境負荷の低減を図っています。私たちはこれらをさらに推進し、美しい地球を守るための努力を続けていきます。

日本テレビ環境方針

■ メディア企業としての情報発信

日本テレビは、番組や各種イベントを通じて、環境保全の重要性を広く国民にアピールします。
これを通じて、メディアとしての社会的責任を果たし、環境保全に寄与します。

■ 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善

日本テレビの企業活動に相応しい環境マネジメントシステムを構築し、資源、エネルギーの有効利用を図ると共に、廃棄物の減量化、リサイクルを推進します。また、これを継続的に改善し、汚染防止に努めます。

■ 法令遵守と社会的責任の遂行

日本テレビの企業活動に関連する環境法規制及びその他の要求事項を遵守し、社会的責任を果たします。

■ 環境方針の達成

・環境目的及び目標を設定し、環境方針の達成に努めます。
・環境方針を全従業員に周知・徹底し、全社一丸となって実行します。
・この環境方針を広く公開すると共に、地域社会とのコミュニケーションを図り環境の維持に努めます。

社会的活動

企業倫理

2003年12月に代表取締役会長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、法令遵守、透明性の高い企業活動の推進に努めてきました。2004年6月に「コンプライアンス推進室」を設置するとともに業務監査システムの強化を実施し、さらに、同年7月1日には「コンプライアンス憲章」を制定・発効しました。コンプライアンス憲章には、日本テレビグループのすべての役員・執行役員・社員が遵守すべき、基本的な内部規範が定められています。日本テレビグループは、自らこのコンプライアンス憲章を遵守することを宣言するとともに、すべての役員・執行役員・社員がコンプライアンス憲章を読み、理解し、遵守します。

http://www.ntv.co.jp/info/

人材育成

多くの人に支持される放送局であり続けるために、コンテンツのさらなる充実が不可欠であると考えています。

「コンテンツ制作力」は、“人”です。そこで、優秀な人材を求め、その能力を最大限発揮できる環境整備に努めています。社員の仕事の成果を正しく評価するための人材評価制度や、社員の適正な育成を行うためのキャリアデザイン、ジョブリクエスト制度を導入しています。

2003年8月には給与体系の改定を行い、年齢や勤続年数による体系から、社員の実績を重視する成果主義に一本化しました。

また、社員の自己啓発や潤いのある生活を実現するための福利厚生カフェテリアプランなど、社員の活性化に貢献する様々な施策を推進しています。そして、こうした取り組みが会社の価値を高めることにつながると考えています。

ママモコモ活動

ファミリー層に楽しく役に立つ情報を発信していくことを目指して、日本テレビおよび日本テレビグループ有志社員が集まり、2009年より「ママモコモ」活動をスタートさせました。「ママモコモ」の名称には“「ママ」も「子」もハッピーでありますように”との思いが込められています。活動内容としては、視聴者ママ同士、企業と視聴者ママ、日テレグループの社員ママ同士など、日本中のママや子どもの情報交換のハブとなることを目指して、地上波放送、イベント、ウェブサイト、商品開発・通販など多面的な情報発信を行っています。

2011年4月にはドラマ「リバウンド」と連動し、ウェブ上で妊娠中や産後のダイエット経験について情報交換できる企画を実施したほか、ゴールデンウィークイベント「日テレ黄金週間 パイレーツの大冒険」や日テレecoウィークイベントの会場に授乳室やオムツ替えのスペースを設置し、スポンサー企業の商品サンプリングを行いました。

今後も日本テレビ発のエンターテインメントを軸に様々な場面で「ママモコモ」活動を展開していきます。

http://www.ntv.co.jp/mamamo/

日テレ体験教室

メディアリテラシーのさらなる向上を目指し、放送機材と中継車を活用した「日テレ体験教室」を２００７年から開催しています。これまでに２４回開催し、参加した小中学生は延べ2,500人にのぼります。

この体験教室は、番組づくりの第一線で活躍する技術スタッフが、「テレビについてもっと知りたい！」という好奇心溢れる子どもたちと触れ合いながら番組制作の仕組みを紹介していく体験キャラバンで、中継放送の仕組みや、番組がお茶の間の視聴者に届くまでの過程を知ってもらうための取り組みです。

ここでは、技術スタッフがカメラ撮影のテクニックや音声のミキシング技術を実演するほか、参加者も実際にカメラを担いだり、中継車に乗って音声ミキサーや編集機に触れたりして番組づくりを体感することができます。

日本テレビではこのほかにも、制作現場で働くプロデューサー、ディレクター、報道記者、アナウンサーなどが講師として小学校や中学校、高校などを訪問し、テレビの面白さや魅力、時にはとっておきのエピソードなどを披露する「日テレフォーラム課外授業!!テレ小屋」も実施しています。

「よみひと知らず」朗読＆ワークショップ

2011年8月26日に東日本大震災の被災地である宮城県石巻市立湊小学校において、「よみひと知らず」朗読＆ワークショップを開催しました。日本テレビと宮城テレビのアナウンサーが紙芝居や朗読を行い、なかでも来場者参加型イベントの「発声練習ワークショップ」や「仙台方言遊び」では、会場内が活気や笑いで包まれました。また、ワークショップに続いて、出演者とスタッフは、ボランティア団体「チーム神戸」が主催する物資配布にも参加しました。当日は事前告知などを行っていなかったものの、ワークショップ開始時点で約170人の方々が、終了時点では約280人と予想を超える数の方々にご参加いただきました。

このようなワークショップを行うことは、被災者の心のケアが重要な課題となっている中、テレビ局ならでは被災地支援と社会貢献を目指すものです。

日本テレビ・NNN　朗読＆ワークショップ

公益財団法人 日本テレビ系列愛の小鳩事業団

眼の不自由な方へは副音声でドラマの情景描写を説明、聴覚に障害のある方には手話通訳や字幕放送で画面上に文字表示、と最近のテレビ放送は情報格差解消への対応を積極的に推進していますが、そのような状況がいまだ生まれていなかった1974年に当事業団は設立されました。読売テレビ・札幌テレビ・中京テレビ・福岡放送の系列4社と日本テレビが基金を拠出しています。以来36年、視聴覚障害のためにテレビを十分に楽しんでいただけない方々のお役に立ちたいという趣旨のもと、障害の早期発見治療や機能回復のお手伝い、社会の人々の理解促進のための協力活動を行ってきました。現在行っている主な事業は以下のとおりです。

- **手話スクール開講**
  手話の普及発展を願い、毎週土曜日、東京・千代田区麹町で約100人の受講生が手話を学んでいます。

- **ニュースの手話放送**
  毎週日曜日のNNN ニュース・サンデーに手話通訳をつけ全国にお届けしています。

このアニュアルレポート別冊版は、適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証用紙および植物油100%の「大豆油インキ」を使用し、ISO14001認証工場において、印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化に繋がるCTPにより製版しています。